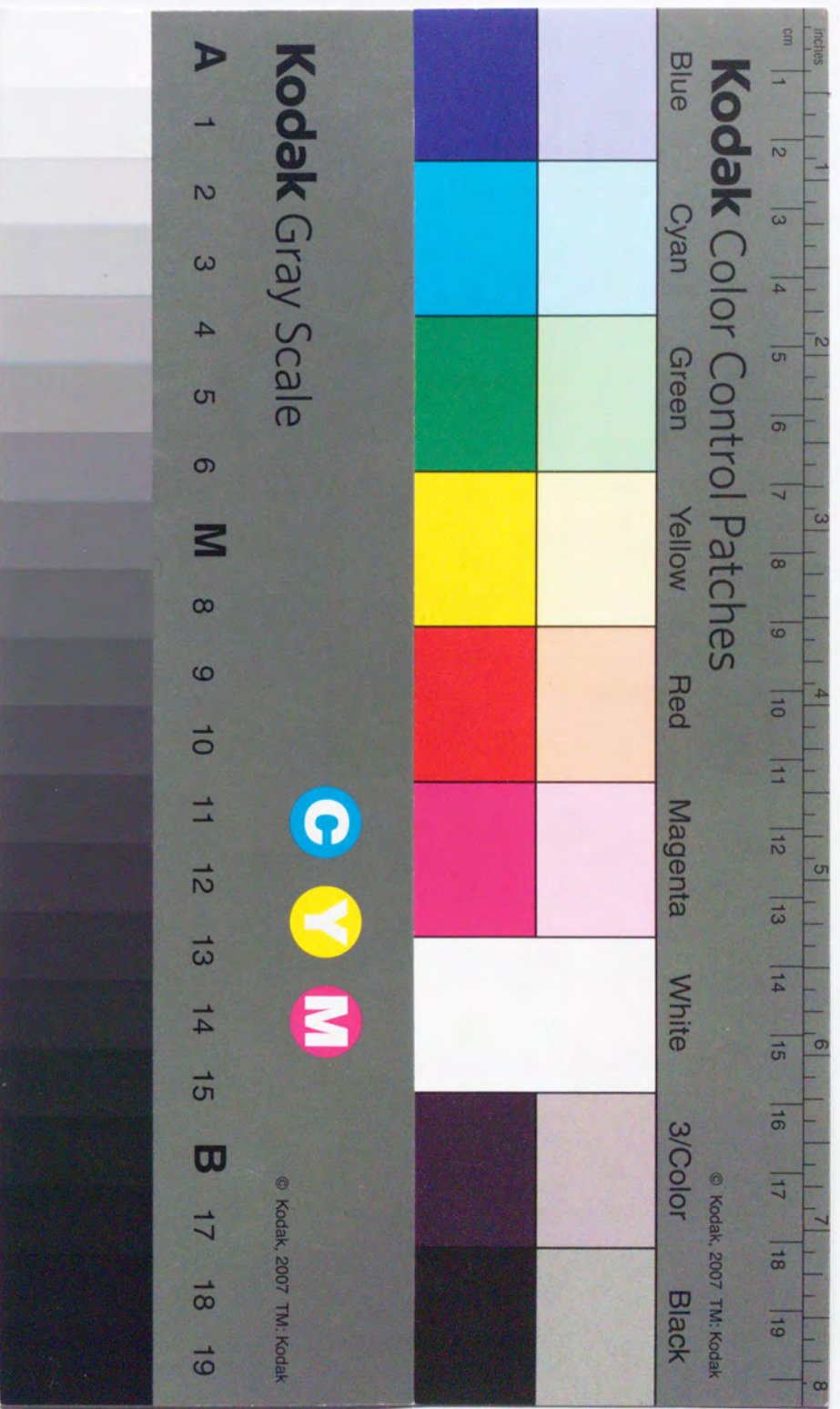




十甲ふあときりけしむにの月とさいあき
ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ
十ふふりなりしは
ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ
ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ
ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ
ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ

ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ
ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ
ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ
ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ
ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ
ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ

ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ
ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ
ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ
ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ
ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ
ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ

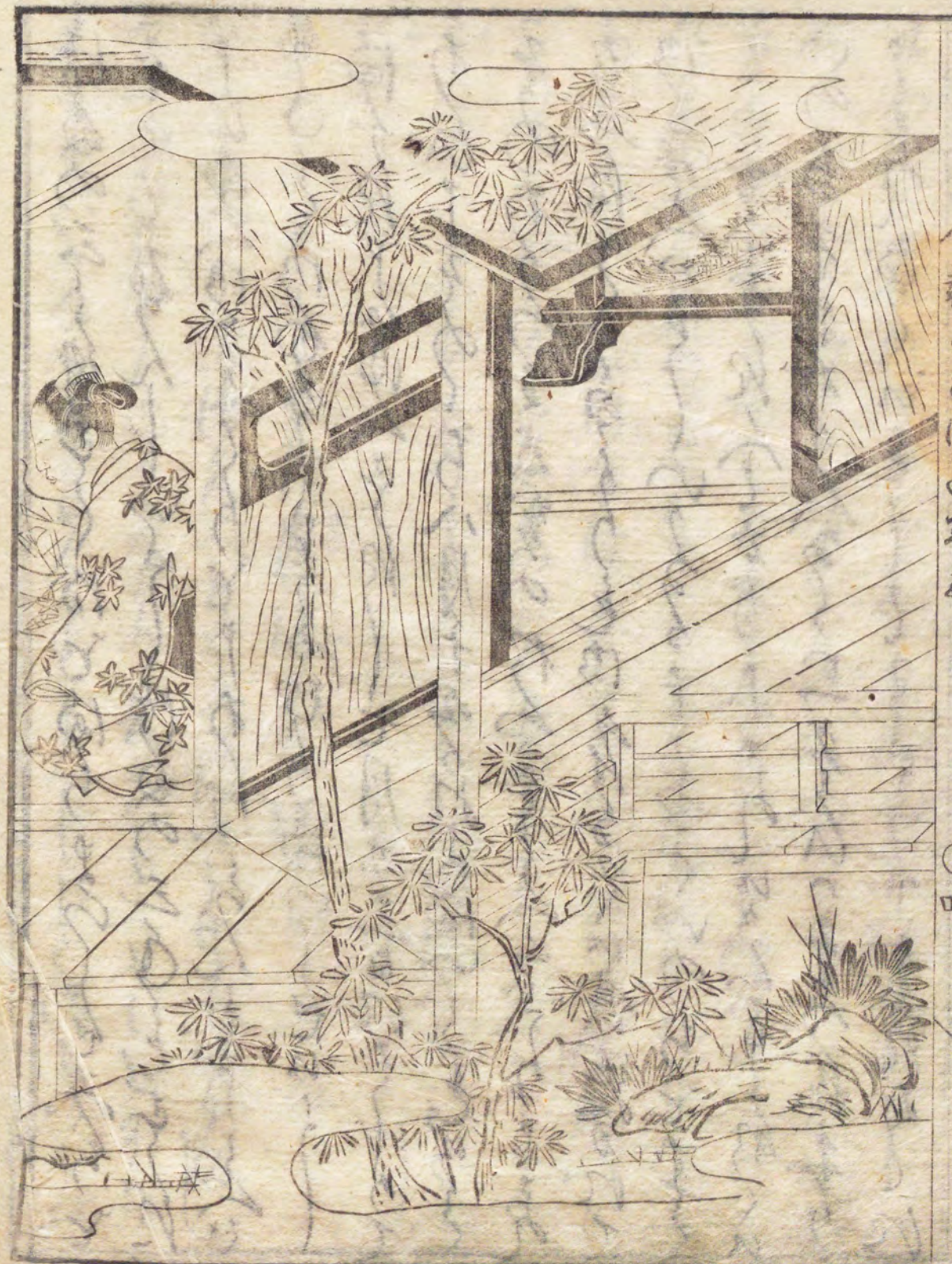
ふはふれあきなりてゆふれふしりぞ今いふ

中やにさるねしうり今^{いま}小^こ或^{ある}小^こねくまうい
 ぬらうてうりけとい子はぬらうなりとちんぷふ
 まう先もあらしくともうなむにあらぶこと
 れどもそれのいうりさむりありともなへ
 ちふふさいゆきげさるるへとな思ひ
 せり今^{いま}ぬくのあんどつてもくらしく
 んけんをさとあうしてうり（とぬくとも）
 後^ご—ふ

うきもの
形像さんけ

あそのやうい清あゝさうでぬつてしかりぬ
そのふれおんしーんちりおろしーんとまり
ふとといふるわんちんとくしーんそのふと

はぬのこを嫁ぎてゆとゆらまゝにせみちと
きくもむんどうしはぬのこをともなへ
りいゆゆとくらとやあげらんといふ
うひとゆゆとしとひりゆいせいに
ゆぐれりいゆゆとだ七月ホ三日に
あひりそのうち八月十日はゆい
そのあつたふたつのねえと
るゆゆとふたつともゆゆかくい
ゆゆとふたつともゆゆとふたつとも
この世ふたつたりりいゆゆとふたつ
いのちをふたつたりりいゆゆとふたつ
ゆゆとふたつともゆゆとふたつとも



そぐ糸ぬいしきうつあつりまぬあきく
まうしとおりし何ふもあきんまう
ゆらりのぬりふかきと下されぬいぬいふ
よのかはまきのぬもこれたぬいぬいぬ
もあきしきういぬあきんあきみあき
そきとあけらきしぬれんもあきしき
ゆらぬのみふふされぬあききとの
ぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ
これのぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ
やけらみふふふふふふふふふふふ
あふりふあきぬいぬいぬいぬいぬ
このぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ

うぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ
やけらみふふふふふふふふふふふ
あふりふあきぬいぬいぬいぬいぬ
このぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ
ゆらぬのみふふされぬあききとの
ぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ
そきとあけらきしぬれんもあきしき
ゆらりのぬりふかきと下されぬいぬいふ
よのかはまきのぬもこれたぬいぬいぬ
もあきしきういぬあきんあきみあき
そきとあけらきしぬれんもあきしき
ゆらぬのみふふされぬあききとの
ぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ
やけらみふふふふふふふふふふふ
あふりふあきぬいぬいぬいぬいぬ
このぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ

肉つゝもいりけみとくしはあぐげ後と
ゆせくといはれぬくいたにうへもあ
るりとう白骨とゆいふらうれたさ
親者の名号いりたふらういへぬれ
うのせらも下されよりしとふも
あといこのちいものういもう人
かくよりかくれといひ

くう(み)といはれしのでいやく
みらあぐりいりたふらういへぬれ
うのせらも下されよりしとふも
あといこのちいものういもう人
かくかくれといひ

みらとくしはあぐげ後と
ゆせくといはれぬくいたにうへもあ
るりとう白骨とゆいふらうれたさ
親者の名号いりたふらういへぬれ
うのせらも下されよりしとふも
あといこのちいものういもう人
かくかくれといひ

あゝんかうもゆにぞういほくみ

[illegible]

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

笑^{わら}ふおとけを縁^{ゆかり}と通^{とお}ゆると和^わみ張^はるこゑと
花邊

とくふり

ふくしなうはまといそとくらあきつておれ

あゝんこなまぐし

てれどあつたれとれをうけとていふり

わくろねたのあつとれちかくおんにも

うふふへくげれさうと君の業あはく

五ノ一も力になれものなりぬ

かきりしつわんそ

五ノ人トナリテクサシクモツカ

夏うそあげて見るといへをばうあ

いふはひをさるゝそりりれ

まゝとくはけりてさふと
腐るなり

海と云ふは

あゝのうとうたに
てゝとて

[illegible]

三

うんじんせいのふし

見々ふけいふとふ

五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

27

Handwritten Japanese text in cursive (sōsho) style, arranged in vertical columns. The text is written on aged, slightly stained paper. The characters are fluid and connected, typical of the cursive style. The right page contains approximately 15 columns of text.

Handwritten Japanese text in cursive (sōsho) style, arranged in vertical columns. The text is written on aged, slightly stained paper. The characters are fluid and connected, typical of the cursive style. The left page contains approximately 15 columns of text.

一と申しに仰らまはせりといふのあらうしに候はれども
 申すや愛すといふに徳仙のまゝいふかやうといふ
 ありとあるをかくとけとわづらひのあらうしといふに
 又わづらひをかくはひあはれはこそれやうあらはれ
 仏のまゝいふといふとせんといふとせんといふとせん
 といふといふといふといふといふといふといふといふ
 今更のうまといふといふといふといふといふといふ
 世中此のうまといふといふといふといふといふといふ
 このうまといふといふといふといふといふといふといふ
 十九日のうまといふといふといふといふといふといふ
 といふといふといふといふといふといふといふといふ
 といふといふといふといふといふといふといふといふ

けうのあうしそきにかじいけきと親もは
 ぶらぐれやうふねとわん一仏のちきいとねねい
 せいーがうしきひとそらねもい親もい仏
 りととひいとゆあうしそきとねいふとんまり
 とと一神とあうしそらね一いあふいけきい
 けうと神とあうしそらねの神のひとてう親と
 けうとてうしそらねとてうしそらねとてう
 けうのけうふえとやうあて神と親のあうしそら
 神と親とてうしそらねとてうしそらねとてう
 けうとてうしそらねの神とてうしそらねとてう
 けうとてうしそらねの神とてうしそらねとてう

いづれけこい大徳神内をくせんよ

夫々タカ世に於て一と思ふ所を結んでみるやうと
 紙

このうゑとて、^{あつち}白門のやうにかつ

[illegible]

ねんもこねとわ家して白の^{あき}屋をふくのゆきて

とろとろと小坂で頭鉢ぐひ二と家平にての三月十日此

あふとくはよむとのみけし 傍^{そと}に西^{にし}へびて座^ざし

夜のかま^{もろけ}いふとわれ^{それ}傍^{そば}のむきとあふふとて^て祢^ねひき^{ひき}て^て

杉多し
 日小
 修路
 多し
 とれ
 とも
 小
 あり
 とも
 あり
 とも
 あり

ふらと給ふ^おて今^{いま}ふありくもや大^{だい}昭^{しょう}祚^{そく}の所^{ところ}なり

同花集にあり

むう 勝算 傷心 の 才子 勝算 所 看 紫 冬 には くら ぶ され



さつかにけられくじし其の十載の縁をひり
 きてさきかたうしものらんそと後とくこのり
 みりへへいりきこし親しうと名づけられ
 いりて後のよれいりきこし親しうと名づけられ
 分そのゆほりて目と心のふりて後とくこのり
 わぬといふ後とくこのりて目と心のふりて後とくこのり
 鳥野のふりて目と心のふりて後とくこのり
 ねり又ありて目と心のふりて後とくこのり
 三昧のふりて目と心のふりて後とくこのり
 けりて目と心のふりて後とくこのり
 不くるしとやりて目と心のふりて後とくこのり
 新雪物語巻五 大尾

後徳九一代記 ひりて目と心のふりて後とくこのり	梅九一代記 ひりて目と心のふりて後とくこのり	愛護第一代記 ひりて目と心のふりて後とくこのり	みをせくし 一冊 大坂新刊細足の巻	女中庸瑪箱 全一冊
後徳九一代記 ひりて目と心のふりて後とくこのり	梅九一代記 ひりて目と心のふりて後とくこのり	愛護第一代記 ひりて目と心のふりて後とくこのり	みをせくし 一冊 大坂新刊細足の巻	女中庸瑪箱 全一冊

女五常訓

一冊

婦人のおと

一冊

花背百首

二冊

いろはま

あけぼの

二冊

あけぼの

二冊

うき世物語

二冊

うき世物語

二冊

仁孝天皇の御代に於ては、女は五つの徳を修めねばならぬと云ふ事になりしを、此の書に記す。

婦人の徳とは、一、徳、二、節、三、廉、四、恥、五、信、の五つなり。

百人一首のさしづき、その徳を修め、代々の婦人に傳へしを、此の書に記す。

あけぼのの徳とは、一、徳、二、節、三、廉、四、恥、五、信、の五つなり。

うき世物語の徳とは、一、徳、二、節、三、廉、四、恥、五、信、の五つなり。

うき世物語の徳とは、一、徳、二、節、三、廉、四、恥、五、信、の五つなり。

大坂書林

和泉屋卯三郎

